

様式第5号（第5条関係）（用紙 日本産業規格A4縦型）

水源保全地域内開発行為に係る健全な水循環の保全措置計画書

開発行為を行おうとする土地の区域		土地の所在 (地番)	別紙参照	地目	別紙参照	面積	43946 m ²
工事中又は工事後の別	工種	環境要素	影響予測		影響に対する対策		
工事中	土工	②、⑦	掘削、盛土した土や仮置きした堆積土砂等が雨天時に流出し、近隣の河川や沢、水路の濁度が上昇する等水質に影響を与える可能性がある。		仮置土は河川に流入するおそれが少ない場所に置く。 また、傾斜地における掘削においては、トンパック等に掘削土を入れ、流出防止を図る。		
工事中・工事後	伐採工	④、⑦、⑧	伐採により水源涵養機能が低下するため、地下水の減少、豪雨時の土砂流出量の増大、植生等の変化が生じる可能性がある。		伐採量を極力減らす。 また、伐採後は天然更新または植林を行う 崩壊の恐れがある法面には植生シート等を施工し、法面の崩落を極力防止する。		
工事後	土工	⑦	切盛土により、災害時の土砂の流出や法面の崩落の可能性がある		工事完了後は、原形復旧を基本とする。また、法面が崩壊する恐れがある箇所については、法面保護（植林、二次製品）について検討する。		

(注) 1 環境要素の欄は、次の中から該当する項目を選択し、記載してください。

①地下水の水質の汚濁、②地表水の水質の汚濁、③地盤沈下、④地下水の変化、⑤河川流量の変化、⑥海況の変化、⑦土壌・土砂の流出・堆積、⑧生態系の変化、⑨景観の変化、⑩住民生活の変化、⑪水に関する文化の変化、⑫その他（具体的な要素を記載すること。）

2 影響予測の欄は、開発行為により予測される影響を具体的に記載してください。